



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

| 日付 | 資金需給予想 | | | 主な要因 | オヘ期日 | オヘスタート | イベント |
|---------|---------|----------|----------|--|----------------|-----------------------------|--|
| | 銀行券要因 | 財政等要因 | 資金過不足 | | | | |
| 4/4 (月) | ▲ 1,100 | ▲ 7,000 | ▲ 8,100 | 消費税・法人税・保険揚げ 普通交付税 国庫短期証券発行・償還 (3M) | 国債補完供給 + 9,200 | ETF買入 + 600 国債補完供給 ▲ 600 | 日: 東証、市場区分を「プライム」、 「スタンダード」、「グロース」に再編 マネタリーベース (3月) 英: 中銀総裁講演 |
| 4/5 (火) | + 1,000 | + 3,000 | + 4,000 | | | | 米: 貿易収支 (2月) |
| 4/6 (水) | + 100 | ▲ 26,000 | ▲ 25,900 | 国債発行 (10年) | | | 米: FOMC議事要旨 (3月15,16日開催分) |
| 4/7 (木) | ▲ 1,000 | ▲ 9,000 | ▲ 10,000 | 国債発行 (3年) | | | 日: 野口審議委員挨拶・記者会見 欧: ECB議事要旨 (3月分) |
| 4/8 (金) | ▲ 500 | + 3,000 | + 2,500 | | | | 日: 経常収支 |

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初新型コロナ対応金融支援特別オペのスタートがあり、先週末対比5兆400億円増加の552兆9,500億円から始まった。その後、主に年度末特有の財政資金の支払により同残高は増加基調を辿り、31日に同残高は563兆1,800億円まで増加した。週末4月1日は、2年債の発行等により560兆6,500億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は地銀業態の調達ニーズが強かったことから高止まりを続け、30日まで△0.004%で推移した。年度末となる31日には一部金融機関が調達を見送ったことから同金利は△0.020%まで低下したものの、前日に調達を見送った取り手が調達を再開したため、週末4月1日には△0.004%に上昇した。ターム物では1W~1M物を中心に主に△0.005%~△0.001%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では東証市場区分の再編 (4日) や野口日銀審議委員による挨拶・記者会見 (7日) などがあり、海外では英中銀総裁の講演 (4日) やFOMC議事録の要旨 (3月15,16日開催分) の公表 (6日) などがある。

[無担保コールレート]

| | 予想レンジ (%) |
|-----|----------------|
| O/N | △0.050 ~ 0.001 |
| 1M | △0.020 ~ 0.030 |
| 2M | △0.020 ~ 0.050 |
| 3M | 0.000 ~ 0.130 |
| 6M | 0.000 ~ 0.150 |

[オープン市場]

| | 予想レンジ (%) |
|---------------|----------------|
| 現先 (on/1w) | △0.050 ~ 0.000 |
| CP 3M | △0.010 ~ 0.000 |

<レポ>

足許GC取引は週初△0.09%近辺の出合い。31日受渡しの取引ではレートが低下し、一時△0.35%の出合いも見られた。4月受渡しの取引はレートが徐々に上昇し、週末には△0.08%近辺まで取引された。SC取引は2年422~434回債、5年135~150回債、10年333~365回債、20年164~179回債、30年66~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆7,700億円で、週間償還額 (約5兆2,100億円) を下回った。発行体が期末の有利子負債圧縮を進めたこと等から大幅な償還超となった。発行市場は、期明けの発行再開に伴い、石油業や鉄鋼業等の一部業態で大型発行が見られたが、全体としての案件数は限定的であった。発行残高は先週末の26兆412億円から3月31日時点で19兆7,858億円に減少した。期末の償還額が大きく大幅な残高減少となったことから、月末残高ベースで昨年3月以来の20兆円割れとなった。発行レートは、△0.020%~0%近辺での出合いであった。28日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.013%・平均落札レート△0.010%と前回比 (按分レート△0.030%・平均落札レート△0.027%) で上昇した。4月以降にCP等買入オペの1発行体あたりの買入上限額が縮小されること等を踏まえ、売却ニーズが増加したことから足切りレートの上昇に繋がったものと考えられる。

来週の週間償還額は、約1,200億円となっている。発行市場は、一般事業法人の発行再開本格化が見込まれることから、発行超を予想する。発行レートは0%近辺での出合いを予想する。

<TDB>

4月1日の3M1070回債の入札は、最高落札利回り△0.0930% (前回債△0.0800%)、平均落札利回り△0.0979% (前回債△0.0815%) となった。来週は4月7日に6Mの入札があり、4月8日に3Mの入札がある。